

令和3年10月26日(火)

会議室 15:30～17:00

第2回学校運営協議会 議事録

1. 校長挨拶

第1回協議会の後、2度にわたり延期していた体育祭を開催することができた。7月下旬と8月下旬にコロナによる臨時休業があった。緊急事態宣言発出のため、9月に予定していた学園祭の延期を余儀なくされ、11月2日(火)に開催予定である。緊急事態宣言が解除され少しずつ落ち着きを取り戻してきたように思うが、生徒たちとともにまだまだ油断せずに日々の学校生活を送っている。

本日は年度半ばの開催ということで、本校の取組の進捗状況のご報告を差し上げるとともに、アドバイスを頂いて、年度後半の活動に活かしていきたいと考えている。忌憚のないご意見を頂戴できればありがたい。

2. 委員紹介

大塚耕司委員、森田英嗣委員、森本哲弘委員、篠原宏明委員

3. 今年度の本校の取組みの進捗状況について

(1) 本年度の学校経営計画について

前期にも学習指導PT主導でほとんどの教員が公開授業を行ったが、先日1人1台端末を配布したので、後期の公開授業ではこれを活用した公開授業も行っていきたい。

三菱みらい育成財団からの助成により、1年生が課題研究(現段階では、自分の興味・関心のある事柄について調べながら、SDGsとの関係を探っている状態)を行っている。フィールドワークにおいて自力で調べた内容をまとめ、1月の府立高校国際関係学科10校が集まる合同発表会で、代表者が発表する予定である。第3回協議会ではその様子についてもご報告差し上げたい。

(2) 総合科学科の取組について

Webサイト「探究レポート」を運営し、活動の様子を校内および校外に向けて発信し、活動内容を広く理解してもらえるように努めている。また、住高支援ネットワーク(本校卒業生の専門知識を有する方々で構成されている支援グループ)と本校生とをマッチングさせる特設サイトを作成し、今週から運用予定。このように外部と積極的につながることで、研究の質の向上をめざしている。今後は、オンラインにより中高や大学・企業との連携なども、住高支援ネットワークを通じて模索していきたい。

(3) 国際文化科の取組について

- ・ TOEFL 対策として「Super English」授業を毎週水曜日 90 分で実施している。
- ・ GTEC アセスメント版を校内受検予定。
- ・ TOEFL 以外にも、日本の大学入試に役立つ民間試験を推奨していくように、外国語科内で検討中である。
- ・ TOEIC 土曜講習を年間 15 回の予定で実施している。
- ・ 1 月に府立の国際関係学科高校 10 校の合同発表会が予定されている。「暗唱」の部では、1 年生校内暗唱大会優秀者 1 名が、「スピーチ」の部では、2 年生ライティングの授業で取り組んでいるエッセイライティングの優秀者 1 名が参加予定である。
- ・ 語学検定の受検をめざす生徒を対象に、第 2 外国語（中国語・韓国朝鮮語・フランス語・スペイン語）の特別講座を設定した。

(4) 国際部の取組について

- ・ コロナの影響で、現在、海外からの訪問団や留学生の受け入れはない。
- ・ オンラインでラオスの高校生と交流を行っている。また、韓国の高校生とも交流した。
- ・ 11 月に大阪大学の留学生とオンライン交流を行う予定である。
- ・ 1 月に JICA の研修生が訪問予定である。

(5) 教務部の取組について

観点別学習状況の評価については、担当チームが中心となり、検討をしているところである。今回算出した前期成績を、観点別評価で評価した場合のデータを全教科から集め、両者を比較して、現段階で考えている評価基準案をさらに改善していくつもりである。

(6) 進路指導部の取組について

- ・ 安定志向からか、入試科目が少ないという安易な理由で、私立大学に目標設定する生徒が増えている状況を危惧しており、最後まで諦めさせない指導を実践している。具体的には、継続的に勉強すれば国公立大学に合格できる実力があることを生徒たちに伝えるとともに、国公立大学合格のために必要な情報を提供するという、地道な取組を進めている。
- ・ 進路実現に向けた意識づけの強化を図っている。学習計画および振り返りを行う「セルフチェックシート」を配布し、学習の進捗状況を自ら管理できるようにしている。また、1 年次から、「自己分析シート」を活用し自己理解を深めていくよう働きかけたり、進路講演会を実施したりして、早い段階からの意識づけをめざしている。
- ・ 看護系進学希望者が増加傾向にある。コロナの影響で大学・専門学校の一泊看護体験が昨年度から実施されていないため、大学・専門学校から講師を招いて、看護に特化した講演を近々行う予定である。
- ・ 今後は、模試の結果等の情報共有や活用、学習指導 P T と連携し学力向上に向けた取組などを、学校全体で進めていくことが必要であると考えている。

(7) 生活指導部の取組について

- ・延べ遅刻総数 1500 未満の達成に向けて、遅刻が常習化しつつある生徒に対して早朝登校指導を行っている。特別な事情があり遅刻が多い生徒についてはこの限りではない。雨天時などは、天王寺駅で阪堺線利用生徒が長蛇の列をなし、遅刻が激増するので、普段から時間に余裕をもって登校できるよう、自己管理能力を高めるような指導を学校全体でしていく必要がある。
- ・本校の伝統である自主自律の精神を尊重する自由な校風と、校則や禁止事項の兼ね合いについて模索中である。

自治会の取組について

- ・5月に予定していた体育祭は、コロナの影響で延期となり、6月に実施した。コロナ対策として、軍手の着用、競技中以外のマスクの着用、応援団の人数制限等を行った。
- ・9月に実施予定であった学園祭も、緊急事態宣言を受けて延期し、来週実施予定。
- ・宣言発出中は自治会の活動も全くできなかったが、コロナも最近は少し落ち着いてきているので、今後はまた活動を活発化していきたい。

(8) GIGA スクール構想について

I C T推進委員会主導で10月1日に全校生徒に1人1台の Chromebook を配布した。O Sが Windows でなく、Microsoft Office も使えない端末であることと、教員用端末が20台強しかないこともあり、教員も使い慣れるのに大変苦労している。そのため、いきなり同時双方向の授業実践ではなく、Google Form 等を用いて、小テストやアンケートを実施し、生徒からの回答を集計するというのを、今年度中の目標とした。もちろん、同時双方向型授業を実践する教員がおれば、その事例を全教員で共有し、互いのスキルアップを図る予定である。

4. 質疑・協議 (● 質問・意見 → 回答)

- 30名超の支援ネットワークの方々がおられるが、どのくらいの期間でこれだけの人数を集められたのか。

→ 支援ネットワーク自体は4年ほど前に立ち上げており、その当時から登録していただいた支援者の方々は多数おられたが、生徒の研究内容と支援者をマッチングする仕組みがなかったため、うまく機能しなかった。そこで今回、特設サイトを立ち上げるとともに、Google グループを作成することにより、生徒の研究上の悩みと、それに対して有効なアドバイスを持つ支援者を円滑にマッチングすることができるようになった。今後はより多くのマッチングが生じるように、さらに支援者を増やしていきたい。

- 課題研究の質的な向上とは、どのような状態になることをイメージしているのか。

→ 1つは、課題設定における質的な向上である。すなわち、教員にうまくいきそうな研究テーマを与えられた状態ではなく、個々の生徒の興味・関心に基づいてテーマ設定がなされている状態である。もう1つは研究活動の質的な向上である。生徒の研究の様子を見ていると、資料調査が不十分であることが多い。自身のテーマに対して、少なくとも高校教科書程度の専門知識（定理、公式、原理、事実など）とのつながりを意識し使用するよう指導しているところである。

- 観点別学習状況の評価について、生徒の自己評価を取り入れたりすることは考えているか。
→教科の特性や授業の方法等により、生徒の自己評価を加味することはあると思うが、これを評価の基準として全教員が取り入れるように指示するかどうかは、今後の検討課題である。
- 遅刻が常習化している生徒がいるとのことだが、どのぐらいの人数になるのか。また、原因の1つとしてコロナの影響もあるのか。
→1、2年生は各数名程度、3年生は非常に多くなってきている。コロナの影響もあるように感じている。
- 自治会選挙では立会演説会のようなことは行われているのか。行われているなら、演説の論点としてどのようなものが多いのか。
→2年前までは体育館に全校生徒が集まって演説会を行っていたが、コロナ禍になってからは放送で行っている。演説の内容は、「より良い学校生活のため」などの抽象的なものが多い。信任投票である。
- 子どもが親とあまりコミュニケーションをとらなくなる年頃ということもあり、自分の子どもが学校でどんな活動をしているのか知らない保護者が意外と多い。コロナ禍で保護者が学校行事等に参加する機会が減っていることもあるので、学校から保護者に向けて情報発信していただけるとありがたい。
- 自由な校風は大変結構であるが、子どもたちが自由をはき違えているように感じる。身だしなみ・礼儀など、社会に出ても通用するような指導をしていただけないものか。
- 上記のような意見もちろんあると思うが、この自由な校風に魅力を感じて住吉に進学してくる生徒もかなり多くいるはずである。住吉高校ではできるだけ自由を大切に、狭い日本の枠に囚われることなく、広い視野で物事を見て、柔軟な発想ができる生徒を育ててほしいと願っている。上記のような指導を厳しく進めてしまうと、何の変哲もない普通の公立高校になってしまうのではないか。
- 自由な校風が特色の学校であるので、「自由」を教育の対象としてどのように捉えるか、というのはとても興味深い議論であると思う。私はアメリカと日本の教育の比較を研究していたが、アメリカは生徒に自由を与えていないと感じる。自由は与えられるものではなく、自力で獲得するものであり、自由を謳歌するには能力が必要である、という考えが根底にある。年少時の教育では非常に厳しく、学年が上がるにつれ少しずつ自由度が増してくる。これに対して日本は幼稚園や小学校では自由であるが、中学・高校と学年が上がるにつれて厳しくなる。このため、アメリカでは高学年になるほど議論が活発になるが、日本では逆にものを言わなくなってくる。このあたりの話は、議論を深めていくと非常に面白いのではないか。
- 「自由」には、「自主・自律」が不可欠であることを教えなければならないと思う。
- 1人1台端末が生徒分だけ揃っても、教員分が揃わなければ授業で活用できないと思うが、教員の端末はいつ揃うのか？
→各クラスに1台ずつ指導用の端末が府から支給されているが、教員用に1人1台端末の予算はついていない。本校ではiPadが多めにあるので、これも利用しながら、いずれ教員の1人1台端末を実現できればと考えている。

●自治会はコロナの影響で活動がほとんどできていなかったとのことだが、コロナが少し落ち着いてきたこともあるし、高校生活の3年間というのは非常に貴重な時間でもあるので、また少しずつでも活動を再開していただきたい。そのために必要なことなどあれば、後援会としても積極的に援助をしていきたいと考えているので、いつでも相談してほしい。

→来週には学園祭が行われる予定であるし、3学期には学年行事（ドッジボール大会など）も予定しているので、今後はコロナに十分注意しながら活動を活発化していきたい。

●Google Chrome は Microsoft Word や Excel、PowerPoint などが使えないとのことだが、生徒は SSH の発表などで資料やスライドはどのように作成しているのか。

→Google ドキュメントや Google スライドというアプリを利用している。

●進路指導について、SSH やユネスコスクールの特別選抜については、生徒は情報をキャッチして選択肢に入れたりしているのか。

→基本的には各生徒の自主的な進路実現を大切にしているので、こちらから積極的にアナウンスはしていないが、そのような志をもつ生徒がおれば、情報は提供している。

●コロナの影響で海外交流ができない状況であると思うが、今後の見通しはどうか。

→現在のところ目途は立っていないが、海外研修に模したオンライン体験学習（7、8月実施の ECC 外語学院主催グローバル体験など）に参加した。ケンブリッジ研修は現在検討中である。

●観点別学習状況の評価について、生徒自身が達成度を評価するために、ルーブリック評価をうまく利用するとよいと思う。それがルーブリック評価の本来の使い方であるため。

5. 校長より謝辞

国際交流については、コロナの影響で完全にストップしてしまっているが、オンライン交流や、JICA 関西の研修生に来校いただくなど、校内でできる範囲で取り組んでいるとともに、旅行者とも連絡を取りながら、交流できるようになったらすぐ再開できるよう準備を進めている。次に、観点別学習状況の評価については、本日頂戴したご意見を参考にしながら試行をしてみて、残り半年弱で準備を進めて参りたい。最後に、本日の大きなテーマともなった「自由」に関する話題は、教員はもちろん、生徒たちの意見も大切にしながら、中長期的なビジョンで議論していく必要があるだろう。今後ともよろしくお願ひしたい。

6. 今後の予定

第3回は2月に開催予定。